

小学校 特別支援教育

小学校特別支援学級における

個別の指導計画と学習指導案の関連に関する調査研究

特別支援教育課 研究員 申 賀 謙 一 郎

要 旨

個別の指導計画と学習指導案の関連を把握するために、青森県内10市27校の小学校特別支援学級を対象として個別の指導計画と学習指導案を収集した。そして、学習指導案における個別の指導計画に関連する語句の出現率を算出し、語句の出現率が高い学校の共通点を分析した。分析の結果、個別の指導計画を学習指導案に反映させるための視点を確認することができた。

キーワード：小学校特別支援学級 個別の指導計画 学習指導案

I 主題設定の理由

特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対して、学習上又は生活上の困難を改善・克服し、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な授業を展開するために、各学校において、特別支援教育の体制整備や関係機関との連携等、様々な取組がなされている。その一つとして、個別の指導計画の作成が進められている。

個別の指導計画とは、「児童生徒一人一人の障害の状態等に応じたきめ細かな指導が行えるよう、学校における教育課程や指導計画、当該児童生徒の個別の教育支援計画等を踏まえて、より具体的に児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応して、指導目標や指導内容・方法等を盛り込んだもの」（文部科学省、2004）と示されているように、特別な教育的支援を必要とする児童生徒一人一人の障害の状態に応じた指導を行うために必要な計画である。また、小学校学習指導要領では、「障害のある児童などについては、特別支援学校等の助言又は援助を活用しつつ、例えば指導についての計画又は家庭や医療、福祉等の業務を行う関係機関と連携した支援のための計画を個別に作成することなどにより、個々の児童の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと」（文部科学省、2008）と示され、個別の指導計画は作成に止まらず計画的、組織的に活用することが望まれている。

個別の指導計画の作成状況は、全国の公立小学校において、平成20年度83.1%、平成21年度85.8%、平成22年度88.2%、平成23年度90.5%と年々整備され、本県においても同様である（文部科学省、2011）。

しかし、その活用は、「個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成・活用などの取組は十分ではなく、特別支援教育の理念の実現という観点から、大きな課題の一つと考えられる」（特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議、2009）と報告されているように、十分ではない状況にある。

特に、「教育的ニーズにきめ細やかに応える授業を創造するためには、個別の指導計画の作成と活用の在り方を探ることは大切なことだと考える」（北九州市立教育センター、2009）、「個別の指導計画は、支援の必要な子どもを理解し、よりよい指導・支援の実施を可能にする大切なものであるが、授業をはじめとした、日々の教育実践に活用することについては課題がある」（久保田、2009）等と示されており、個別の指導計画は、授業における活用に課題があると推察される。

この課題を解決するためには、個別の指導計画に基づいた授業が展開されなければならないと、その前提として、授業の計画である学習指導案との関連が欠かせないと考えた。

そこで、個別の指導計画と学習指導案を収集、分析し、それらの関連の視点を検討することが、一人一人の教育的ニーズに応じた授業につながるのではないかと考え、本主題を設定した。

II 研究目標

個別の指導計画と学習指導案を収集し、双方に関連する語句の出現率を基に共通点を分析することにより個別の指導計画の目標、手だて（以下、目標、手だて）を学習指導案に反映させるための視点を明らかにす

る。

Ⅲ 研究の実際

1 調査の対象及び手続き

県内10市27校の小学校特別支援学級（知的障害，自閉症・情緒障害）を対象として，平成24年8月17日～9月7日に，対象児童に関わる個別の指導計画と学習指導案を収集した。

県内の小学校特別支援学級設置校数（平成23年度）における，県内10市の知的障害及び自閉症・情緒障害特別支援学級設置校の割合を計算し，割合の低い市を1とした時の比率を基に，個別の指導計画及び学習指導案を収集する校数を決定した。

2 分析の方法及び手順

(1) 方法

個別の指導計画の要素である目標，手だてを具体化した語句が学習指導案中にどの程度出現するかによって，個別の指導計画と学習指導案の関連を分析することとし，目標及び手だての出現率を算出した。

また，収集した学習指導案には，細案，略案の両方があったため，本研究では，全ての学習指導案に共通している本時の指導の記載部分を分析の対象とした。

(2) 出現率の算出方法

まず，目標，手だての記述を文節ごとに区切り，語句の抽出を行った。次に，本時の指導における，ねらい，学習活動，支援・留意点，評価の4つの項目から，目標，手だてと関連する語句を含む文の抽出を行った。関連しているかどうか判断が難しい場合は，本時の指導以外の記述や個別の指導計画の記述の内容も吟味し，判断した。

そして，本時の指導の全文数における，目標及び手だてに関連する語句を含む文数の割合を出現率として設定し，以下のように算出した。

目標の出現率（％）＝目標に関連する語句を含む文数／本時の指導の全文数×100

手だての出現率（％）＝手だてに関連する語句を含む文数／本時の指導の全文数×100

(3) 手順

収集した27校全ての目標及び手だての出現率を算出し，それぞれの上位5校を抽出した。これらの学校はそれぞれの出現率が高いことから，目標，手だてが学習指導案に関連していると仮定し，①個別の指導計画の共通点，②学習指導案の共通点，③個別の指導計画と学習指導案のつながりの共通点の三つの観点で分析した。

3 調査の結果

(1) 目標の出現率上位5校における共通点

図1は，27校全ての目標の出現率である。目標の平均出現率は，43%であった。この結果を基に，目標の出現率の高い，コ，シ，タ，ナ，ネの5校を抽出し，先に述べた三つの観点で分析を行った。

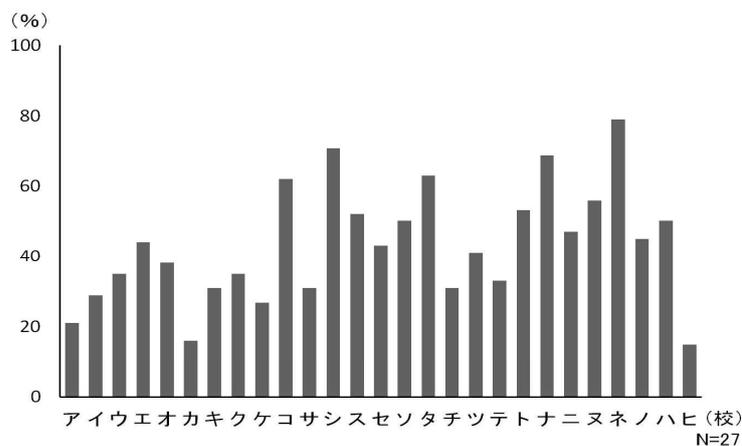


図1 目標の出現率

ア 個別の指導計画の共通点

共通点として、「長期目標を基に短期目標が設定されている」ことが挙げられた。表1は、目標の出現率上位5校の個別の指導計画より抜粋した長期目標と短期目標である。上位5校全てにおいて、長期目標を基に、段階的に短期目標が設定されていた。

表1 目標の出現率上位5校の個別の指導計画より抜粋した長期目標、短期目標

	長期目標	短期目標
コ	<ul style="list-style-type: none"> 恥ずかしがらずに、積極的に自分の意見を話したり、進んで友達と関わろうとしたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 紙芝居を相手に分かりやすく読んであげ、相手が読んだ紙芝居の感想やアドバイスを自分から発表できる。(1学期) クリスマス会の準備や進行に意欲的に取り組み、司会や感想発表をすることができる。(2学期)
シ	<ul style="list-style-type: none"> ルールを守り仲よく活動することができる。 苦手だと感じる活動にも進んで取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 約束を守り、落ち着いて話を聞いたり、活動したりすることができる。(1学期) 苦手な学習内容に、スモールステップで取り組むことができる。(1学期)
タ	<ul style="list-style-type: none"> 10までの数について、示された数を数え、数字を選ぶことができる。 友達と仲良く活動できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 10までの数の中で、教師が示した数を聞き、示された数のおはじきを並べたり、シールを貼ったりすることができる。(前期) 怒ったり取り合ったりしないで、道具を準備することができる。(前期)
ナ	<ul style="list-style-type: none"> 分からない時、自分から人に聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の指示が理解できなかつたり、聞き逃してしまつたりした時、友達にどうすればよいか聞くことができる。(1, 2学期) 教師、友達の表情から相手の状況をつかみ、状況に応じた聞き方をすることができる。(3学期)
ネ	<ul style="list-style-type: none"> 清潔な身なりに気を付けることができる。(服装, 靴の履き方, 髪, 歯, 爪) 	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみに気を付けて生活する。(1, 2学期) (靴, 爪, 洋服の着方, たたみ方, ハンカチ, ティッシュの携帯) 衣服を汚さないように、活動したり食事したりする。(3学期)

イ 学習指導案の共通点

共通点として、「本時のねらいが個別化されている」ことが挙げられた。

表2は、表1の各校の学習指導案より抜粋した全体目標と個人目標である。本時の指導において、全体目標を基にした個別の目標が設定されていた。

表2 本時のねらいが個別化されていた例

全体目標	<ul style="list-style-type: none"> 身近な材料を用いて、お出かけしたい町を作ることができる。
個人目標 (A)	<ul style="list-style-type: none"> 提示された手順に従って、教師と一緒に作ることができる。
個人目標 (B)	<ul style="list-style-type: none"> 写真を見て作りたい物を選び、見本などを見ながら自分で作ることができる。
個人目標 (C)	<ul style="list-style-type: none"> 印をもとに、ダンボールや色紙などを一人で切ったり、貼ったりすることができる。

ウ 個別の指導計画と学習指導案のつながりの共通点

共通点として、「短期目標を具体化した本時のねらいが設定されていた」、「本時の評価が個別の指導計画の評価に反映されていた」ことの2点が挙げられた。

表3は、表1のシ校の個別の指導計画、学習指導案より抜粋した短期目標、本時のねらいである。長期目標を基に短期目標が設定され、さらに、細分化された本時のねらいが設定されていた。

また、表4は、図1のネ校の個別の指導計画、学習指導案より抜粋した評価である。本時の評価に基づいた総括的评价や児童の変容が、個別の指導計画に記載されていた。

表3 短期目標を具体化した本時のねらいが設定されていた例

短期目標	・約束を守り、落ち着いて話を聞いたり、活動したりすることができる。
本時のねらい	・「口を閉じる」、「やさしくタッチする」などのルールを守り、つま先やかかとの動きを意識してリズム運動をすることができる。
	・仲よくすごろく遊びをすることを通して、ペアになった友達と話し合ったり、他のペアをあったか言葉や拍手で応援したりすることができる。

表4 本時の評価が個別の指導計画の評価に反映されていた例

本時の評価	・お腹や下着が見えないように洋服を着ることができたか。
個別の指導計画の評価	・洋服の着方、靴の履き方に気を付けることができるようになった。洋服を濡らさないように、手洗いや掃除ができるようにもなっている。ハンカチ、ティッシュの携帯は継続して指導していく必要がある。

(2) 手だての出現率上位5校における共通点

図2は、27校全ての手だての出現率である。手だての平均出現率は、35%であった。この結果を基に、手だての出現率の高いコ、セ、ナ、ヌ、ネの5校を抽出し、目標の出現率と同様に三つの観点で分析を行った。

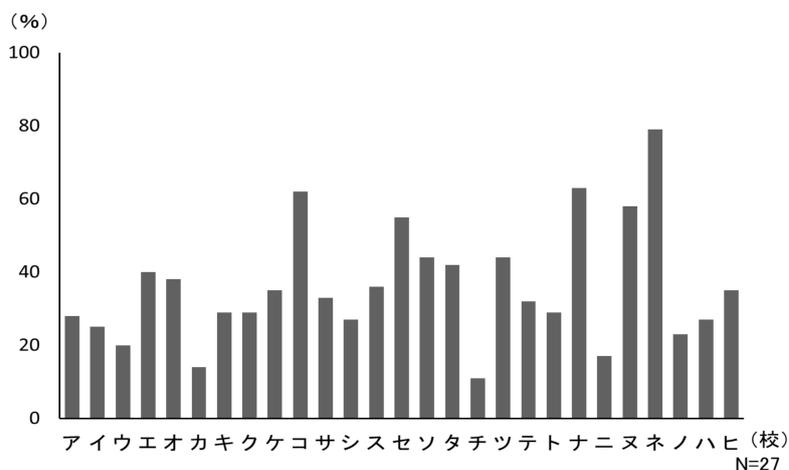


図2 手だての出現率

ア 個別の指導計画の共通点

共通点として、「短期目標を基に手だてが設定されていた」ことが挙げられた。表5は、手だての出現率上位5校の個別の指導計画より抜粋した短期目標と手だてである。全てにおいて、短期目標を達成するための指導場面や支援方法が具体的に設定されていた。

表5 目標の出現率上位5校の個別の指導計画より抜粋した短期目標、手だて

	短期目標	手だて
コ	・紙芝居を相手に分かりやすく読んであげ、相手を読んだ紙芝居の感想やアドバイスを自分から発表できる。	・3人が揃った朝の会で発表し合い、質問や感想を述べ合う。(1学期)

	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマス会の準備や進行に意欲的に取り組み、司会や感想発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小さい子のお世話を進んでしたり、リーダーとして活動したりできる場を設定する。(2学期)
セ	<ul style="list-style-type: none"> ・絵や丸図などを手掛かりに答えが5までの足し算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵カードなどの具体物を操作したり、丸図などの半具体物を示したりすることで、足し算の意味を理解させる。(1学期)
	<ul style="list-style-type: none"> ・絵や丸図などを手掛かりに答えが10までの足し算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き箱に書かれた数字や丸図を足すゲームを繰り返しながら、答えが6～10までの足し算に慣れさせるようにする。(2学期)
ナ	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の話をしたら、必ず相手にもその話題について質問することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の会でスピーチの練習をしたり、自立活動で練習したりする。(1学期)
	<ul style="list-style-type: none"> ・相手が話している時、教えてもらっている時、相手の顔を見て話を聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が良くない聞き方をし、児童に注意させることで顔を見て聞く意識を高めていく。(2学期)
	<ul style="list-style-type: none"> ・相手が話し終わってから、自分の話をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の時間に練習し、協力学級や家庭でも実践できるように連携していく。(3学期)
ヌ	<ul style="list-style-type: none"> ・当該学年の学習内容に取り組み、漢字や計算問題に自分から取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートやドリル、プリントの学習の場面で、シール等のごほうびを活用する。(前期)
	<ul style="list-style-type: none"> ・思い通りにならない時でも、大声で叫ぶのではなく、自分の気持ちや要求を言葉で伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面、場面で適切な行動を教え、パニックになった時には、クールダウンできる場所を確保する。(前期)
ネ	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみに気を付けて生活する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・こまめに注意し、本人に身だしなみの大切さを意識させていく。(チェックシートの活用)(1, 2学期)
	<ul style="list-style-type: none"> ・服を汚さないように、活動したり食事したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・汚さないやり方を教師が示し、練習させる。(3学期) ・汚した時の対応を自分で考えさせ、練習させる。(3学期)

イ 学習指導案の共通点

共通点として、「支援方法が個別化されていた」ことが挙げられた。

表6は、表5の〇校の学習指導案より抜粋した全体目標と支援方法である。全体目標を基にした支援方法が個別に設定されていた。

表6 支援方法が個別化されていた例

全体目標	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力して読み聞かせをし、「聞き手」の感想やアドバイスを生かして音読練習をする。 ・紙芝居の読み聞かせを聞き、「読み手」の良いところやもっと練習した方が良いところを発表する。
支援方法(A)	<ul style="list-style-type: none"> ・緊張してなかなか読めない時は、安心できるように教師も小声で読む。
支援方法(B)	<ul style="list-style-type: none"> ・緊張して言葉が出ない時は深呼吸させ、出だしの言葉を一緒に読む。
支援方法(C)	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで発表しない時は、聞く観点に照らし合わせて教師の質問に答える形で話させる。

ウ 個別の指導計画と学習指導案のつながりの共通点

共通点として、「手だてを具体化した支援方法が設定されていた」、「本時の評価が個別の指導計画の評価に反映されていた」ことの2点が挙げられた。

表7は、表5のナ校の個別の指導計画と学習指導案より抜粋した手だてと支援方法である。短期目標「教師の指示が理解できなかつたり、聞き逃したりした時、友達に聞くことができる。」を達成するための手だてが設定され、その手だてを具体化した支援方法が設定されていた。

また、表8は、表5のセ校の個別の指導計画と学習指導案より抜粋した評価である。目標の出現率上位5校と同様に、本時の評価や授業後の児童の変容が総括的に記述されていた。

表7 手だてを具体化した支援方法が設定されていた例

手だて	・実際の困った場面を取り立てて学習する。
支援方法	・不適切な場面と適切な場面をビデオによって提示し（モデルは協力学級の児童に協力してもらい）、適切なタイミングに気付かせる。不適切な場合の理由も確かめる。

表8 本時の評価が個別の指導計画の評価に反映されていた例

本時の評価	・空き箱の裏に丸図を書いておくことにより、数え直しをするなど、進んで足し算に取り組むことができたか。
個別の指導計画の評価	・数え間違ったと思う時は、数え直したり、印や数字を書きながら数えることができるようになってきた。正確に数えるための手だてを必要に応じて使っている姿が見られたので、今後も継続していきたい。

IV 考察及び研究のまとめ

1 個別の指導計画の共通点

目標の出現率上位5校の共通点は、「長期目標を基に短期目標が設定されていたこと」であった。全てにおいて、長期目標を細分化した短期目標が段階的に設定されていた。また、手だての出現率上位5校の共通点は、「短期目標を基に手だてが設定されていたこと」であった。全てにおいて、短期目標を具体化した手だてが設定されていた。これらは、長期目標が達成されるまでの過程を明確に意識するための視点であると考えられる。

2 学習指導案の共通点

目標の出現率上位5校の共通点は、「本時のねらいが個別化されていたこと」、手だての出現率上位5校の共通点は、「支援方法が個別化されていたこと」であった。全てにおいて、ねらい、支援方法の個別化により、いつ、どこで、どのような支援を行うかが明確に示されていた。これは、児童一人一人の目標の達成状況や支援方法の有効性を把握するための視点であると考えられる。

3 個別の指導計画と学習指導案のつながりの共通点

目標、手だてそれぞれの出現率上位5校の共通点を整理すると、「短期目標を具体化した本時のねらいが設定されていたこと」、「手だてを具体化した支援方法が設定されていたこと」、「本時の評価を個別の指導計画の評価に反映させていたこと」の3点となった。全てにおいて、段階的に設定された目標、手だてがさらに細分化され、本時のねらいや支援方法が設定されていた。これは、単元や授業の計画のみならず、実際の授業場面においても、常に個別の指導計画を意識するための視点であると考えられる。

また、評価の関連は、児童一人一人の形成的評価を積み重ね、個別の指導計画において総括的な評価を行うための視点であると考えられる。

これら三つの共通点こそ、個別の指導計画を学習指導案に反映させるための視点であると考える。

個別の指導計画を授業において活用していくためには、目標や手だて、本時のねらいや支援方法を段階的に設定し、それらを基に形成的評価を積み重ね、個別の指導計画の評価に反映させる「授業との連動」が重要であることを、本研究を通して改めて確認することができた。

V 本研究における課題

研究で確認できた視点を踏まえて、今後取り組むべき課題が二つあると考える。一つ目の課題は、個別の指導計画と授業を結びつけることである。本研究では、授業実践を通して、研究で確認できた視点を検証するまでには至らなかった。そのため、個別の指導計画に基づいた授業を行っていくことが必要である。その手だてとして、個別の指導計画を基にした支援方法のマニュアルを作成し、授業での活用を図りたい。試したり、修正したりした支援方法をマニュアルに記録し、日々の授業に役立てたいと考えている。

二つ目の課題は、教師間の連携による個別の指導計画の活用である。授業実践と結びついた個別の指導計画をさらに活用するためには、指導に関わる教師間の連携が必要となる。そのためには、指導の積み重ねを教師間で共有し、手だての評価、改善を協同で行うことが重要になると考える。その手だてとして、個別の指導計画に児童の様子や評価を簡潔に書き込める工夫をし、教師間で支援方法に対しての意見や児童の変容等を個別の指導計画に書き込み合いながら情報交換を行っていきたいと考えている。

今回の研究で確認できたことを、今後、学校現場において、個別の指導計画を基にした授業、指導に関わる教師間の連携に生かし、児童一人一人の良さが発揮できる環境づくりを目指していきたい。

<引用文献・URL>

- 1 文部科学省 2004 「小・中学校におけるLD（学習障害）、ADHD（注意欠陥／多動性障害）、高機能自閉症の児童生徒への教育支援体制の整備のためのガイドライン」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1298161.htm (2012. 5. 8)
- 2 文部科学省 2008 『小学校学習指導要領（平成20年3月）』, p. 16
- 3 文部科学省 2011 「平成23年度特別支援教育体制整備状況調査」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1321185.htm (2012. 9. 21)
- 4 特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議 2009 『特別支援教育の更なる充実に向けて（審議の中間とりまとめ）～早期からの教育支援の在り方について～』
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/054/gaiyou/1236337.htm (2012. 10. 5)
- 5 北九州市立教育センター特別支援教育研究部門 2009 「一人一人の教育的ニーズに応える授業の創造～個別の指導計画の作成と活用を通して～」『平成20年度北九州市立教育センター研究紀要』, p. 212
- 6 久保田昌子 2011 「LD等支援の必要な子どもの指導の充実に向けて—自分らしさを発揮し、ともに学ぶ喜びを実感できる個別の指導計画を効果的に活用した教科学習の実際—」『平成22年度京都市教育委員会、京都市総合教育センター研究紀要』, p. 125

<参考文献>

- 太田市教育研究所 2011 「特別な支援を必要とする児童生徒への指導の充実」『研究紀要第50集』
- 海津亜希子 2008 『個別の指導計画作成ハンドブック』 日本文化科学社
- 海津亜希子, 佐藤克敏, 涌井恵 2005 「個別の指導計画の作成における課題と教師支援の検討」『特殊教育学研究第43巻第3号』 日本特殊教育学会
- 鹿児島県総合教育センター特別支援教育研修課 2005 「個別の指導計画に基づく指導の在り方に関する研究」『鹿児島県総合教育センター研究紀要第108号』
- 栗原順子, 霜田浩信 2011 「小学校における個別の指導計画に対する教師支援の効果」『群馬大学教育実践研究別刷第28号』 群馬大学教育学部附属学校教育臨床総合センター
- 小坂みゆき, 姉崎弘 2011 「小学校における「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」の作成・策定と活用」『三重大学教育学部研究紀要, 自然科学・人文科学・社会科学・教育科学』
- 埼玉県立総合教育センター特別支援教育担当 2010 「小・中学校等における特別支援教育に関する校内支援体制整備状況についての調査研究」『平成21年度埼玉県立総合教育センター研究報告書第334号』
- 渋谷万里 2008 『LD・ADHD・高機能自閉症等支援の必要な子どもの「個別の指導計画」の具体的な在り

- 方一機動的な「個別の指導計画」とは一』『平成19年度京都市教育委員会，京都市総合教育センター研究紀要』
- 島根県教育センター 2012 「特別支援学級の指導の充実に向けて（1年次）～実態調査と授業実践の提案～」『平成23年度島根県教育センター研究紀要』
- 長野県教育委員会 2010 『特別支援教育教育課程学習手引書一特別な支援を必要とする子どもの教育課程編制のために一共通・連携編』
- 広島県教育委員会 2008 『特別支援教育ハンドブックNo. 2』
- 横尾俊他 2009 「特別支援教育への理解と対応の充実に向けた小・中学校の取組」『国立特別支援教育総合研究所研究紀要第36巻』
- 吉田昌義 2010 「実践に生きる個別の指導計画とは」『特別支援教育2月号（通巻630号）』 東洋館出版社
- 和歌山県教育センター学びの丘 2009 「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒の指導及び支援に関する調査研究」『平成20年度和歌山県教育センター学びの丘研究紀要』
- 渡辺淳 2011 「小学校における児童同士の相互理解が深まる交流及び共同学習の推進に関する一考察～特別支援学級担任と交流学級担任との連携の在り方を通して～」『平成22年度特別支援教育長期研修員報告書』 宮城県特別支援教育センター